2024年11月12日　現代アジアの人と社会・特別講義「中国チベットの文化を知ろう」

＜アジア夢カレッジ・国際関係学部＞

国際関係学科２年

私は、チベット出身のロディー・ギャツォさんの話の、チベットでは、亡くなった人は鳥にその人のお肉を食べさせる鳥葬をして弔うということを聞いて衝撃を受けた。しかし、この鳥葬はチベットが大事にしている仏教の輪廻転生を意味すると教えていただいた時、同じく仏教を信仰している日本とは違って、チベットは仏教の考え方に忠実なのだと思った。日本はチベットと違って儒教や仏教、キリスト教など多くの宗教に染まった国なのでチベットのように一貫して仏教を信じる考え方はないのだと自国との宗教に関する意識の差を知る良い機会になったと感じる。日本でもチベットと同じように鳥葬を取り入れて、浮いた資金を個人の好きなことに使うというやり方を取れば、墓の問題や、遺産の問題などの厄介ごとに悩まされることはならないと思う。

国際関係学科２年

中国のビジネスや観光分野に興味があったが、チベットについて歴史以外で学んだことはなかったため、講義の内容はチベットの文化、習慣、生活など初めて知るものが多くとても新鮮だった。特に印象に残っているのはチベット人には苗字やお墓がないということだ。仏教では人は生まれ変わるという考えがあるため、苗字が無くなったそうだが、これは名字による差別撤廃に繋がるという面もあることを学んだ。また、骨をきれいにして粉にし、自然に戻す鳥葬という埋葬方法を初めて知った。同時に、これは老後のお墓問題やお墓の手入れ、環境問題が関係していることもわかった。そして、チベットの方は亡くなった人の衣服や財産は親族で受け継ぐのではなく、お寺に寄付する形が取られているのも興味深いと感じた。

多文化コミュニケーション学科 ２年

中国に関する授業を受けていて、「チベット問題」を何度か聞き気になっていたため、今回の授業でチベットに関する話を聞いて興味や関心が以前よりも高まった。鳥葬や苗字を持たないことのような、チベット仏教の影響を受けて存在するチベットの独自の文化について詳しく学べた。また、日常生活で飲み食いするものや郷土料理、生活の様子など動画を通して見たため、とても印象に残った。最近のチベットでは、スマホを使いTikTokのようなグローバルなアプリを使っていると知り非常に驚いた。　ロディーさんの住むボンダ村の付近に空港ができ道路が設備され、若者が都会の方へ出ていくと聞き、日本と同じように若者が村から消えてしまうのではないかと考えた。

多文化コミュニケーション学科 ２年

とても興味深い講義でした。高山地帯というある種過酷な環境で生活を送っているからこその食生活が存在し、仏教による教えや考えが広く深く浸透しているなど、とても興味深かったです。人々の性格や宗教的な側面は、日本とかなり似通った部分があるなと感じました。一番驚いたのはチベットの広さです。てっきりチベット自治区がチベットの範囲だと思いましたが、もう少し広い事に驚きました。四川省で訪れた事がありましたが、確かにチベットの民族衣装を着た人をほんの数人ですが見かけた事があります。チベットはよく聞くものの、あまり興味や関心がありませんでしたが、今回の講義でとても強い魅力を感じました。その他の中国の少数民族についても調べてみようと思います。もちろんチベットに関しても、もう少し深く調べてみようと思っています。

＜国際関係学部国際関係学科＞　４年

「中国チベットの文化を知ろう」の特別講義を受けて、チベットでの本当の暮らしを除くことができたと思います。価値観や文化が違うと感じ方、考え方が違うととても実感しました。その例としまして、鳥葬がとても印象に残りました。火葬や土葬は知っていましたが鳥葬という葬儀の形を知らなかったので驚いたのもありますが、日本ではきっと賛否が分かれるであろう形だとは思いました。ロディさんがなんの映画で見たと言っていたかは覚えていないのですが、鳥葬の表現が映画の中で過激だったと聞きましたが、本当はもっと美しく伝統的なものであると教えていただきました。きっとこの授業がなければ、チベットのことを知ることも、鳥葬を知ることもできなかったと思います。大変貴重な時間をありがとうございました。

＜国際関係学部多文化コミュニケーション学科＞

４年

今回の講義では特別講師の方々を招き、中国チベット文化の解説をしていただいた。世界の経済や社会情勢などよりも様々な地域の文化に興味があるため、今回の内容はとても面白いものだった。なかでも印象に残っているものは、現在のチベットでTikTokが流行っているという点だ。インターネットの普及によって、手軽に情報にアクセスできることを象徴していると感じた。授業の際に聞きそびれてしまったのだが、TikTokなどのSNSが発達する前の若者の娯楽はどのようなものが多いのか気になった。次に冬虫夏草の価格高騰によって生じる不和も印象に残っている。あいまいで寛大な性格は長所でもあるが、時に争いを生み出すものかもしれないと考えた。

３年

本日の講義では、中国チベットの文化や生活習慣について学びましたが、特に東チベット地域(特別講師の地元)の大自然に感動しました。今回の講義を受講するまで、チベット地域に対するイメージが湧きませんでしたが、チベットには穏やかな草原と力強く聳え立つ山脈があり、まさに漫画の世界のような絶景で驚きました。また、ポタラ宮殿という建築物も非常に魅力的で、壁がヤク(動物)や乳製品(チベット麦)から作られていることを学び、自然と人間の共存に感心しました。その他にも“鳥葬”という伝統風習についての説明では「人生の最後まで周りのためになるような行動をする」というチベット人の考え方には心を動かされました。チベットにはあまり日本人を好まない人がいるというお話がありましたが、それでもポタラ宮殿やラサ地区を始めとするチベットの観光地に訪れたいと感じました。その際は高山病に気をつけます。

３年

今回の講義では、中国チベットの文化や生活習慣について学んだが、特に印象に残った話は「鳥葬」の話である。なぜなら、仏教の輪廻転生の考え方と深く結びついていると感じたからだ。仏教では、人は死後に新たな生へと生まれ変わると考えられており、肉体は一時的なものである。魂が次の生へと向かう際、肉体を他の生命の糧として捧げることは、慈悲の実践とされている。チベットの厳しい自然環境では土葬や火葬が困難であることも、鳥葬が広まった理由の一つでもある。ハゲワシが遺体を完全に消費することで、魂が完全に肉体と離れ次の転生にスムーズに移行できる。日本では鳥葬という文化はないため、このような文化があることに驚いた。しかし、今後、日本では多くの墓が必要になる。そのために森林伐採なども行われる。環境にとってそのような行為は行ってはいけないと思うし、鳥葬のような文化があれば、あらゆる土地問題を解決できるので、日本にもこの文化を広めたいと感じた。

３年

今回の授業で、木村氏とロディギャツォ氏の中国チベットの体験談と現地の人の生の声を聴いて学んだことは２つある。1つ目は、日本人と違ってチベットの人たちは、自分の信じる宗教やお坊さんの教えに忠実で、特に「五体投地」ではいつくばってラサまで目指すという催しでは、おなかの大きい妊婦さんまでも参加するというお話には、チベット人のまじめな国柄を感じた。2つ目は、鳥葬や食べ物のお話から、自国では絶対にありえないことでもその国の人々にとっては、人生の中で大事な行事の一つだと学んだ。鳥に食べられることによって自然に帰る、肉も1年に一回屠殺時期を決める、小さいものは食べないといったことにも刺激をもらった。世界でエコフレンドリーや環境に配慮したシステムを開発されている中で、必要最低限の狩りしかしないチベットの人々の生活こそ、自然と人が共存しているというのだと感じた。

３年

講義の中で一番印象的だった内容は、鳥葬のお話でした。日本人には衝撃的な考えで、否定的な意見が多そうだと感じました。ですが、チベットではそれが普通で、効率の良い文化であることを知りました。墓の維持など金銭的な問題が多くある日本とは異なり、チベットでは墓がないためそのための資金は自分自身に有効活用できると聞き、日本にはない考えで異文化を実感しました。鳥葬の他にも、一妻多夫婚などのチベットの文化は日本とは全く異なる部分が多くあると感じた。また、小学校までは通うがその後は家の手伝いとして遊牧などをすることを知り、教育環境の改善が現在どうなっているのか気になった。

３年

今回の講義を聞いてチベットに対してのイメージがかなり変化したように感じる。特に印象に残っているのは鳥葬などの死生観に関する話や、チベット仏教を中心とした宗教に関する話だ。死生観に関して鳥葬を取り入れていることが印象に残っているが、墓地が多く並ぶ日本との対比で信心深いが日本のように形を残して死者を弔うのではなく自然に返し来世や前世に対しての意識が強いというのが独特の価値館なのではないかと感じた。またスマホの普及率が高いというのが意外で、TikTokもみんなやっているという話に対して親近感を覚えると同時に、チベットは閉鎖されている・大都市とは隔離されているようなイメージを少し抱いていた部分があったため、SNSなどを通してグローバルな感覚をあるのだということが印象的だった。

２年

今回の講義を聞いて、改めて中国は広く様々な文化が共生しているのだなと思いました。遊牧民はモンゴルのイメージが強くありましたが、中国でも遊牧民が生活を営んでいるのだなと感じました。スマートフォンの普及が日本よりも中国の方が早かったことは知っていましたが、それが遊牧民にも及んでいて、それが経済の急速的な発展につながっているのではと考えました。テレビ、ラジオ、新聞がないまま、情報が大量に得られるようになって、何か生活に変化が起こったことはあるのか気になりました。また、他の地域の生活を簡単に知る事ができるようになって遊牧民ではなく、都市部に出ようと思ったり現代的な生活をしようと思ったりする事がなく、伝統的な生活が続いているのも興味深かったです。　鳥葬は確かに場所を取らず自然に返すことができるので、おっしゃっていたことにとても共感しました。発展しているというイメージだった中国ですが、広大な国の中では様々な文化があり、生活があることを忘れずに学んでいきたいです。